

夏の遊びを通して

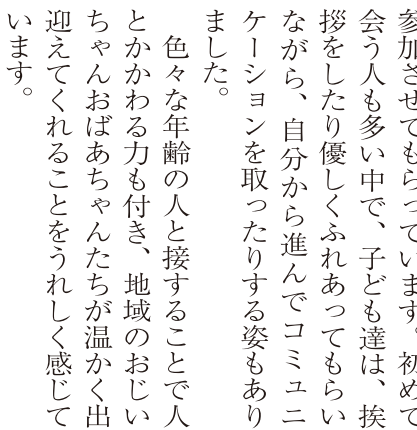
今年の夏は、雨の日が多かったですが、晴れた日には外でプール遊びを楽しみました。

幼児組は、園庭の大きなプールで、乳児組は小さなビニールプールやタライを使ってそれぞれの育ちにあった水遊びを楽しみました。
冷たい水の心地よさを感じながら全身で解放感を味わえました。



いきいき交流会

8月18日(月)に赤組が下西の川合宿施設で行われた「いきいき交流会」に参加し、地域の方と一緒に楽しい時間を過ごしました。歌やダンスを見てもらったり、最後には子ども達が手作りしたビーズのブレスレットをおじいちゃん、おばあちゃん達にプレゼントしました。西区だけでなく、他の区にも別のクラスが参加させてもらっています。初めて会う人も多い中で、子ども達は、挨拶をしたり優しくふれあつてもらいながら、自分から進んでコミュニケーションを取ったりする姿もありました。



よつちよれよ

高原祭りは天候不良のため踊りが中止になりましたが、子ども達は、ノリノリで「よさこいパッション」という曲を踊って楽しんでいました。運動会などで見てもらいたいと考えています。

今年のわくわく運動会は10月4日(土)です。子ども達の姿をぜひ見にいらしてください。



「心を育てる子育て」(前回から)

感動を起こさせるスパイスは、大人の顔の表情、声の抑揚、動きの変化によって効き目が違います。

子どもに感動する心を与えようとすると、そこには『新しい今』を生きたという感動の心を失わない大人が必要なのです。

・木に虫を発見し、大人に知らせる。
大人は「大きい虫?、小さい虫?」

といいながら見に来てくれる。大人は「小さい虫だね」と教えてくれる。子どもは「小さい虫」という言葉を覚え使ってみようとする。

・大人の言葉がけと一緒に活動する中でイメージしたものができあがり、大人から「すごいね!」と褒められる。子どもは嬉しい気持ちを伝えたくなくなる。

また、大人の言葉がけや一緒に活動、おもちゃの利用により遊びが広がり、大人と一緒に遊び込んで楽しかった様子や体で感じたことを伝えたい。…泥団子作ったけれど難しかった「太鼓橋に上がろうと思っただけれど手がとどかんかった」「プールに入って体がさっぱりして気持ち良くなった」etc

自分の活動を伝えたい…心が動いた活動だから

(幼児教育アドバイザー日向國雄)

